

静観台グループ例会

於：サイエンスフィールド 2002. 1. 30

参加者 石浦（科学園）高松（仁美小）松本（国府小）田辺（福浜小）福井（伊島小）

【評価して、どう指導するか】田辺・松本

子供達の自主的な活動を喚起するために自己評価カードを使って学習のふり返りをさせる。「ぼくはビンゴの枠を書く時にていねいに書けなかったので次は1年生のために頑張りたい」という反省を書いている子供が、次の時間にもやはり雑なまま。反省が活かせていない。評価が機能していない。こんな時、担任はどうするか。それぞれの先生のスタイルがでて、興味深いお話でした。問題を提起してくれた田辺先生ありがとう。



【卒業制作】高松

今年も高松先生の巨大卒業制作がスタートしています。今年は学級通信に写真入りで紹介されており我々にとっても有り難い資料になっています。配置決めにパソコンの画像ソフトを使用するなど、新しい試みも取り入れられています。135cm×10mのロール状ケント紙は4100円で東京の『いとうや』という店から送ってもらったそうです。



【いないいないばあ】福井

もとは山口県の松村浩一さんと言う人が考え出し1999年のサイエンス展示実験コンテストで科学技術振興事業団会長賞をとった作品です。これをチャック付きビニール袋に代えたのは原体験教育研究会の高田さんの功績で、とてもお手軽になりました。右の写真は水に入れるとイラストの色が消えるという原理を利用して男の人の服が消えていくところです。



【UFOサッカー】松本

国府小学校の片山元（はじめ）先生が考え出されたゲーム。サッカーのインサイドキックの練習にいいそうですが、体育の教材という枠を超えて素晴らしいアイテムが誕生しました。右の写真で蹴っている物がそれですが、洗面器にガムテープで段ボールを貼り、その上から梱包用の透明テープを貼っています。その部分が透明テープでツルツルとエアホッケーのようによく滑るようになり、うまく蹴ると体育館の横位の距離を滑走するそうです。トゥキック（つま先蹴り）だとひっくり返るので、インサイドキックの練習にうってつけなのだそうです。長い距離を滑走し、上から踏むとピタッととまる。その動きを利用してUFOサッカーというゲームを楽しんでいるのだそうです。この他にもカーリングゲームやボーリングなど応用範囲が広そうですね。UFOサッカーの説明用紙の書き方がとても面白く、ぜひとも静観台の例会に参加して欲しい人材ですね。

